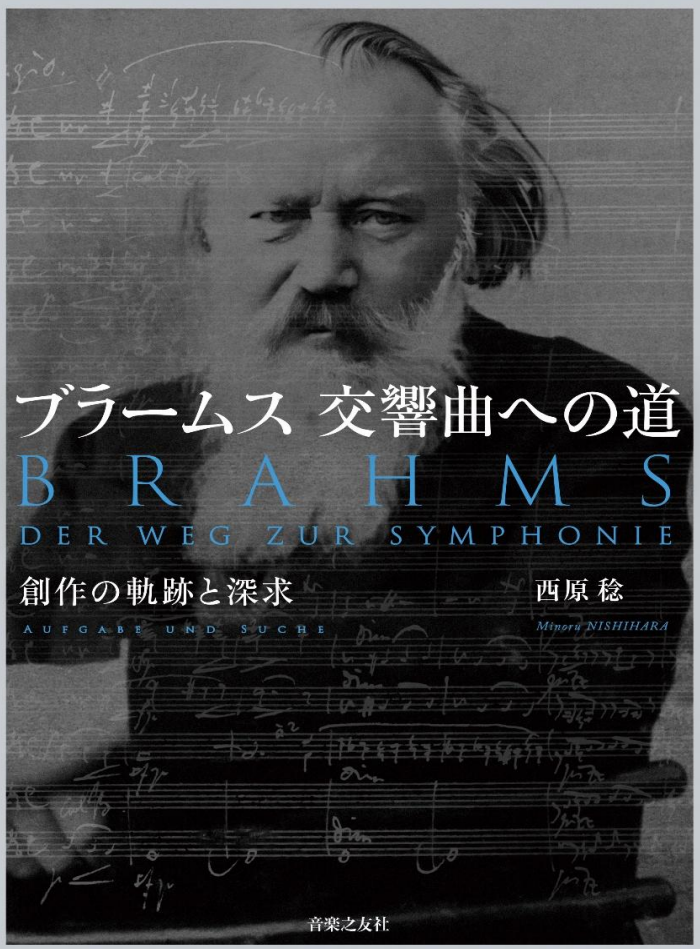
ブラームス　交響曲への道

創作の軌跡と探求

なぜブラームスは
最初の交響曲の完成に二十年以上
もの歳月を費やしたのか

マルクスセンやヨアヒムに作曲を学び、ガブリエーリ、シュッツ、バッハ、ハイドン、ベートーヴェン、シューベルト、シューマンらの作品を研究したブラームス。
クララ・シューマンやグリム、ビューロー、エリーザベトら周囲の意見に耳を傾け、作曲上の課題に粘り強く向き合った。
完成後や初演後にも手を入れ続けたその姿勢は、音楽表現へのあくなき探求心のあらわれである。
本書では、セレナード、ピアノ協奏曲、変奏曲、歌曲の管弦楽編曲、管弦楽付き声楽曲、序曲、そして四つの交響曲を取り上げる。楽譜や書簡を手がかりに、各作品の成立過程や背景、作品相互の影響関係をたどり、ブラームスが何を作曲上の課題としたのかを明らかにし、四つの特徴を示す。
豊富な譜例や資料とともに読める、ブラームスの音楽的思考の核心に迫る一冊。



A5・288頁　定価　3,520円（本体3,200円＋税10%）
ISBN　978-4-276-13036-4

■ 目次 ■

はじめに
序章
第1章　ブラームスの創作の底流
　　――マルクスセン、シューマン、ヨアヒム
第2章　《セレナード第1番》と古典派の理想
第3章　《ピアノ協奏曲第1番》における革新
第5章　《セレナード第2番》とバッハ受容
第6章　シューベルトの歌曲のオーケストラ編曲
第7章　新しい響きの開拓
　　――《ドイツ・レクイエム》、《運命の歌》、《アルト・ラプソディー》におけるオーケストラ表現の試み
第8章　《ハイドンの主題による変奏曲》の創作とその意義
第9章　《交響曲第1番》
第10章　《交響曲第2番》
　　――陽光と鋭い影のはざまで
第11章　《大学祝典序曲》と《悲劇的序曲》
第12章　《ピアノ協奏曲第2番》におけるオーケストレーションの革新
第13章　《交響曲第3番》におけるシンメトリーの思想
第14章　《交響曲第4番》
終章　ブラームスの残響
あとがき
ブラームス資料集
注
主要参考文献

■ プロフィール ■

西原　稔（ニシハラ　ミノル）

山形市出身。桐朋学園大学名誉教授。シューマンおよびブラームスを中心に、とくに近代ドイツ音楽をさまざまな見地から研究。『音楽家の社会史』『聖なるイメージの音楽』『音楽史ほんとうの話』『ブラームス』『シューマン　全ピアノ作品の研究　上・下』（ミュージック・ペン・クラブ賞受賞）『《ドイツ・レクイエム》への道　ブラームスと神の声・人の声』『神と向かい合った作曲家たち　ミサ曲とレクイエムの近代史1745-1945』（以上、音楽之友社）、『ブラームスの協奏曲とドイツ・ロマン派の音楽』（芸術現代社）、『「楽聖」ベートーヴェンの誕生』（平凡社）、『ピアノの誕生』『クラシック　名曲を生んだ恋物語』（講談社）、『クラシックでわかる世界史』『ピアノ大陸ヨーロッパ』（以上、アルテスパブリッシング）、『世界史でたどる名作オペラ』（東京堂出版）などの著書のほか、訳書等もある。

ご担当　　様

（貴店名・帳合）	（注文）　冊

音楽之友社　■12月　新刊書籍■

ブラームス　交響曲への道
創作の軌跡と探求　　西原　稔

A5・288頁　定価　3,520円（本体3,200円＋税10%）
ISBN　978-4-276-13036-4

➡ ご注文: FAX 03-3235-2148

㈱音楽之友社／営業部　TEL.03-3235-2151